

令和7年度事業報告

自 令和7年4月1日
至 令和8年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(7)
3. 編集委員会	(7)
4. 学術委員会	(8)
5. 統計調査委員会	(13)
6. 専門医制度委員会	(14)
7. 国際学術交流委員会	(15)
8. 評議員選出委員会	(16)
9. 保険委員会	(17)
10. 倫理委員会	(18)
11. 腎不全総合対策委員会	(18)
12. 危機管理委員会	(19)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(20)
14. 男女共同参画推進委員会	(20)
15. 感染対策委員会	(21)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(24)
(2) 監事	(24)
(3) 評議員	(25)
(4) 退任した役員等	(30)
(5) 役員等の報酬等	(30)

② 会員に関する事項	(31)
------------	------

③ 職員に関する事項	(31)
------------	------

④ 役員会等に関する事項	(31)
--------------	------

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項	(35)
---------------------	------

⑥ 重要な契約に関する事項	(35)
---------------	------

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(36)
2. その他の記載事項	(38)

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第70回日本透析医学会学術集会・総会は、大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学 教授 猪阪善隆会長が主宰し、2025年6月27日（金）、28日（土）、29日（日）の3日間、大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪他を会場として開催した。

今回のテーマは「いのち輝く未来社会の透析医療」を掲げて開催し、参加者は17,608名であった。

<招待講演>

「Cardiovascular Effects of Home Dialysis Therapies」, 「CKD-MBD treatment in dialysis patients : guidelines and developments」

<特別講演>

「多様な個性の力を発揮し、いのち輝く社会へ」, 「医療イノベーション創出におけるアカデミアの役割」, 「アバターと未来医療」, 「生命を捉えなおす～動的平衡の視点から～」, 「透析を止めた日」, 「透析導入期加算を通じた重症化予防の推進と深化した共同意思決定の推進について」

<会長講演>

「いのち輝く未来社会の透析医療を目指して」

<教育講演>

「遠心分離法を用いたヘムアフェレシス」, 「急性血液浄化療法アップデート」, 「新しい尿毒素の定義に基づく血液浄化器の評価」, 「I-HDFの臨床効果を検証する」, 「VA作製の術前評価」, 「バスキュラーアクセス作製の術前評価」, 「エコーガイド下穿刺の基礎から実践」, 「IDHを防ぐ体液量設定方法～多軸の体液管理と透析の安定～」, 「透析アミロイドーシスの診断と治療～整形外科の立場から～」, 「誰でもできるフットケアの実践～足のアセスメントと処置～」, 「透析患者の血糖管理」, 「サイバー攻撃に対するBCP」, 「腎臓リハビリテーションの実際」, 「PDにおける腹膜線維化について（基礎研究）」, 「腹膜透析の血液透析への移行、併用療法への移行と中止について」, 「腎不全患者における睥または肝同時移植の適応と実際」, 「今後の移植医療のあり方について」, 「免疫学的ハイリスク腎移植の現状と今後の展望」, 「透析患者の悪性腫瘍」, 「HIF-PH阻害薬の最新アップデート」, 「CKD-MBDの基礎を学ぶ」, 「透析患者の心臓突然死の現状」, 「透析患者の心不全治療の現状と課題」, 「心不全合併透析患者の血行動態管理に役立つ心エコー図検査の見方」, 「中性脂肪蓄積心筋血管症 TGCVにおけるCKDの意義」, 「中性脂肪蓄積心筋血管症 TGCVに対するトリカプリン栄養療法」, 「おいしくリン制限をする食事療法の実践的アプローチ」, 「高齢透析患者特有の食事療法の問題とその対策」, 「腎不全患者の人生を豊かにする生活目標（Life Targets）の実践とその意義」, 「透析医療におけるACP」, 「優しさを伝えるマルチモーダル・ケア技術：ユマニチュード」, 「コーチングマインドで毎日を豊かにする」, 「透析現場におけるキャリア開発ラダーの作り方と活用」, 「看護師の特定行為の実践と課題」, 「透析医療におけるデータサイエンスの実践と展望—標準化から機械学習の臨床応用まで—」, 「医師におけるChatGPTの有効な使い方」, 「「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」に関する留意点」, 「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく安全マネジメントの実践」, 「透析排水の適正管理」

<合同企画シンポジウム>

日本循環器学会・日本透析医学会 合同企画：透析患者の心血管病治療の実践的アプローチ

日本骨粗鬆症学会・日本透析医学会 合同企画：透析患者の骨折予防戦略

日本腎臓病薬物療法学会・日本透析医学会 合同企画：透析患者に対する薬物治療の注意点～薬剤師の視点～
＜シンポジウム＞

「オンライン HDF の再評価」, 「異種移植～温故知新～」, 「透析患者の冠動脈石灰化結節を識る」, 「腹膜透析の遠隔医療」, 「貧血ガイドライン 2024～臨床はどう変わるか?」, 「骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂の意図を読み解く」, 「患者の日常生活の「見える化」～遠隔モニタリング～」, 「AKI 診断精度の向上を目指して」, 「透析液組成の将来設計」, 「バスキュラーアクセス長期開存を目指した手術, 管理」, 「サイコネフロロジー診療ガイドと臨床現場での実践」, 「急性腎障害と血液浄化療法の現状と課題」, 「透析患者における nephrocardiology (Nephrocardiology in Dialysis Patients)」, 「CKD 患者が適切な造影剤検査を受けるための啓発活動」, 「透析患者の弁膜症カテーテル治療の進歩と今後の課題」, 「医療における人工知能研究・実装の最前線」, 「透析患者の脳血管障害～治療の最前線と今後の課題」, 「透析患者における抗凝固薬, 血栓溶解薬の適応を再考する」, 「透析患者の末梢動脈疾患の集学的治療」, 「災害時透析医療における広域関東圏での行政を含む地域連携」, 「もし CKD 患者が大規模災害に遭ったら, どうする? どうなる?」, 「HIF-PH 阻害薬のコントロール」, 「透析情報標準 HL7 FHIR 規格」, 「透析患者総数減少に関する検討, 分析」

＜TSN-KSN-JSDT Joint Symposium＞

「Dialysis treatment in an aging society」

＜ワークショップ＞

「在宅血液透析普及に向けて」, 「腎代替療法を受けている患者さんの声を聴く」, 「新生児・小児から移行期までの透析医療の現在地」, 「透析装置洗浄消毒・透析液清浄化の諸問題」, 「バスキュラーアクセス治療の最新動向」, 「次世代につなぐ! VA 関連手技をこう教えている」, 「【Japan Endovascular Treatment Conference (JET) 合同企画】LIVE 動画から学ぶ! VAVIT 手技のコツ」, 「シャント関連疼痛をどうやって見分け, どうやって痛みを軽減している! ?」, 「どうやってる! ? VA 管理」, 「VA 看護の現状とこれから」, 「透析時運動指導等加算がもたらした透析医療の変革」, 「血液浄化における CE 業務の展望」, 「透析患者のビタミン・微量元素」, 「腹膜透析推進に向けた取り組み」, 「血液浄化における多職種連携を考える」, 「サルコペニアをめぐる疑問」, 「腹膜透析患者の地域連携推進のための取り組み」, 「私の栄養療法外来～これが私の指導法です」, 「私の施設の PD 診療～PD の始め方, 終わり方」, 「未来へ繋ぐ腎移植～移植医療を始めませんか～: 腎移植若手の会共催企画」, 「腎移植後管理～こんな時どうしますか?～」, 「今あらためて塩分について考える」, 「アフレスシスが切り開く未来」, 「腎代替療法における DX」, 「全ての腎不全患者に届ける SDGs な腎移植を目指して」, 「血液浄化における高齢者看護」, 「腎不全患者への支援を考える」, 「腎臓病・透析患者のプレコンセプションケア」, 「若手研究者と考える臨床研究キャリアパス」, 「私の骨粗鬆症外来～プラクティスパターン開陳します」, 「透析患者の骨をめぐる疑問」

＜学会・委員会企画＞

腎不全総合対策委員会企画：地域を踏まえた腎不全対策を考える

学術委員会企画：year in review 2024

感染対策委員会企画：透析患者におけるワクチン接種と感染症の予防戦略

保険委員会企画：令和 8 年度改定に向けて保険委員会の取り組み

統計調査委員会企画：JSDT 統計調査データを用いた臨床研究

感染対策委員会企画：バスキュラーアクセス/ペリトネアルアクセスと感染予防

男女共同参画推進委員会企画：TSUBASA PROJECT

危機管理委員会（災害対策小委員会）企画：透析療法災害対策における広域・行政との連携（Collaboration with Regional and Administrative Authorities in Disaster Management for Dialysis Therapy）

学術委員会（栄養問題検討ワーキンググループ）企画：透析患者の栄養状態を解明する—SUDACHI study—

学術委員会（血液浄化に関する新技術検討小委員会）企画：新技術で貢献するいのち輝く次世代人工腎臓治療への挑戦

危機管理委員会（医療安全小委員会）企画：透析医療における医療安全のための提言

学術委員会（末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会）企画：末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言

学術委員会 ウロキナーゼ供給困難下における VA 血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ：ウロキナーゼ非供給による透析医療への影響，そしてその対策

学術委員会（血液浄化の機能と効率に関する委員会）企画：血液浄化器（中空糸型）機能分類の改訂に向けて

学術委員会（栄養問題検討ワーキンググループ）企画：CKD 保存期から透析まで一貫した食事療法

統計調査委員会企画：WADDA システムをどう使いこなすか

専門医制度委員会企画：転換期を迎える日本専門医機構と透析医学会

学術委員会（バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ）企画：慢性血液透析用バスキュラーアクセスの作製および修復に関するガイドラインの追補版作成の進捗状況

学術委員会（医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会）企画：医師の働き方改革やタスク シェアリングの発展のための課題

国際学術交流委員会企画：Newest renal registry data of end stage renal disease of every country in Asia

国際学術交流委員会企画：Problems in the selection and treatment of renal replacement therapy

<よくわかるシリーズ>

「血液浄化機の機能と選択」, 「血漿交換～アルブミン置換液の組成を中心に～」, 「AKI に対する血液浄化療法 up date」, 「日本における看護 DX（デジタルトランスフォーメーション）」, 「医療従事者のための AI 基礎知識～人工知能の仕組みから医療応用まで～」, 「カフ型カテーテル」, 「無敵の中心静脈カテーテル挿入手技」, 「ガイドライン, エビデンスから PD 関連感染症症例を考える」, 「小児の腹膜透析」, 「新人スタッフの個性を活かす教育」, 「腹膜透析処方考え方」, 「腹膜透析排液異常の鑑別と対応」, 「やってみよう！経皮的腹膜透析カテーテル挿入術」, 「腹膜透析患者の合併症」, 「透析患者の心房細動に対する抗凝固療法をどうするか」, 「今求められる透析患者の栄養管理・栄養指導」, 「CKD-MBD（慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常）（リン低下薬）」, 「腎移植レシピエントの感染症」, 「腎移植のこと～しっかりサポートするために～」, 「貧血治療～目標 Hb に達しない時の考え方～」, 「慢性透析患者における低栄養の評価と栄養介入の重要性」, 「透析患者の至適血圧」, 「生体腎ドナーを生涯にわたり守るために」, 「透析患者の皮膚病変とスキンケア」, 「腎臓リハビリテーションの現状と今後」, 「診察所見と症状からどう読み取る？」, 「透析室における感染対策」, 「Up-to-date apheresis」, 「シャントエコーの基本」, 「ビリーブメントカンファレンスの実際と意義」, 「医療連携を進めるために看護師ができること」, 「高齢腎不全患者の生き方に寄り添う看護」

<企業共催シンポジウム>

「日本における PD の到達点へのプロセス～安定した PD の継続を再考する～」, 「透析患者の Ca 管理を再考する」, 「カルシウム, リン, PTH 管理の最前線 ～心血管・骨折リスク低減をめざした個別化医療～」, 「CKD・透析患者の腸内環境への治療介入（腸腎連関・心腎連関を考慮して）」, 「日本人の特性を考慮した透析患者の高リン血症治療戦略」, 「現代の治療に応じた透析アミロイドーシス治療～患者 QOL 向上を目指した集学的治療～」, 「みんなで考えるストレスフリー穿刺～患者のための医療の提供を目指して～」, 「日本人のエビデンスから見る腎性貧血治療」, 「医療者・患者・患者家族にとって、より良い治療法の実践～メリットを適切に提供・享受するために～」, 「DOPPS シンポジウム」

<ハンズオンセミナー>

「血管吻合ハンズオンセミナー」, 「エコーガイド下穿刺ハンズオンセミナー」

<その他>

医療安全講習会 教育講演 18

「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」に関する留意点」

医療倫理講習会 教育講演 19

「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく安全マネジメントの実践」

感染対策講習会 教育講演 20 「透析排水の適正管理」

2025年7月1日（火）正午～7月31日（木）23：59まで（会期後オンデマンド配信）

日本透析医学会認定 透析液水質確保に関する研修 ※全てオンデマンド配信

2) 通常総会・臨時総会

(1) 第70回通常総会開催：2025年6月26日（木）16：00～17：30

(2) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催：2025年6月28日（土）

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：2025年6月13日・6月26日・12月12日・2026年3月26日

(2) 監事による監査会開催：2025年5月13日（火）

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しないこととした。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しないこととした。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会（脇野 修委員長）

学会ホームページの円滑な運営，内容の充実化において，学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会（酒井 謙委員長）

慢性腎臓病療養指導看護師・腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師制度・日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成（CKD分野）に関しては，本年度問題提起されず活動を行わなかった。

腎代替療法専門指導士については，日本腎代替療法医療専門職推進協会と連携を取り，各透析医療専門職が指導士資格取得できるよう努めた。特に本年は，eラーニングの受講単位減免について，管理栄養士，薬剤師，腎臓病療養指導士（各3，3，6単位減免）について，減免措置が決定した。また新たな各透析医療専門職として，認定サイコネフロロジー公認心理師（日本サイコネフロロジー学会）が指導士資格を取得できるように決定された。

(3) 統計調査のあり方小委員長（友 雅司委員長）

① 統計調査データのWEB収集及びEDC（electric data capture）システムに関わる調査を行った。

② EDC推進検討ワーキンググループと共同してEDCの導入を検討した。

(4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）

① 委員会は，オンラインで実施した。

② 昨年に引き続き，第70回日本透析医学会学術集会・総会（令和7年6月，大阪市）に合わせて対面式研修を実施した。対象はベトナムからの4名，カンボジアからの1名とした。3日間学会に参加したのち，大阪市～奈良市の3施設での研修を予定していたが，受け入れ側の都合で直前に1施設を中止，急遽，他の1施設を追加する措置を講じた。関係各位に感謝申し上げる。

③ 来年度は第71回日本透析医学会学術集会・総会（令和8年6月，神戸市）の開催に合わせて，ラオスから3名，モンゴルから2名の計5名を対象に研修を実施することを取り決め，10月以降，その準

備を開始した。

(5) 本学会のあり方小委員会（友 雅司委員長）

① 公益法人移行に関しては、今後も継続審議していくこととした。

(6) e-ラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）

① 第70回日本透析医学会学術集会・総会の教育講演を収録し、会員専用ページ MyWeb にアップし、専門医は単位取得できるようにした。

また、専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにした。

② 運用については、ホームページ上で「e-ラーニング配信開始のお知らせ」を掲載し、本学会の会員（正会員、施設会員、賛助会員）へ周知した。

③ 単位の認定に関しては、出題された5問全てに正解することとし、全門正解するまで何度も冒頭に戻り繰り返し視聴できるようにした。

(7) 書籍発行運営委員会（小川智也委員長）

① 日本透析医学会ブックシリーズの出版書籍として、「透析患者の糖尿病治療ガイド2025」を6月に出版した。

(8) 台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会（土谷 健委員長）

2025年度は日本透析医学会、台湾腎臓医学会、韓国腎臓学会の覚書に則して、3学会の年次学術大会を下記の通り開催した。

① 第70回日本透析医学会学術集会・総会（2025年6月28日開催、日本、大阪）

テーマ：「Dialysis treatment in an aging society」

(1) 座長：

1. Yoshitaka Isaka (Osaka University Graduate School of Medicine) 日本
2. I-wen Wu (Taipei Medical University) 台湾
3. Hyeong-Cheon Park (Gangnam Severance Hospital, Yonsei University College of Medicine) 韓国

(2) 演者：

1. Yoshiaki Takemoto (Osaka Metropolitan University Hospital) 日本
Dialysis Treatment in an Aging Society -Japanese Situation-
2. Yen-Ling Chiu (Far Eastern Memorial Hospital) 台湾
Dialysis Treatment in Elderly Patients in Taiwan -Current trends and Challenges-
3. Jae Won Yang (Yonsei University Wonju College of Medicine) 韓国
Recommendation of target blood pressure in elderly CKD patients with hypertension

② 韓国腎臓学会開催（2025年6月21日開催、韓国、ソウル）

テーマ：「Shared Decision-Making for ESKD Patients in Asia」

(1) 座長：

1. Dae Eun Choi (Chungnam National University Hospital) 韓国
2. Tadashi Tomo (Oita University) 日本
3. Yung-Ho Hsu (Taipei Medical University) 台湾

(2) 演者：

1. Sejoong Kim (Seoul National University Bundang Hospital) 韓国
Topic : How Did Korea Approach Shared Decision-Making for Dialysis Patients?
2. Yasuhiro Komatsu (Gunma University) 日本
Topic : Japan's Approach to Shared Decision-Making in Dialysis
3. Yi-Wen Chiu (Kaohsiung Medical University Hospital) 台湾

Topic : Shared Decision-Making in Dialysis : The Taiwan Experience

③ 台湾腎臓医学会 APCN との合同開催 (2025 年 12 月 5~7 日, 台湾, 台北)

台湾, 韓国, 本学会 3 学会シンポジウムは施行されず.

(9) VA 血管内治療認定医制度委員会 (深澤瑞也委員長)

1) 昨年度の VA 血管内治療認定医制度委員会の認定作業時に生じた様々な事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に本年度の申請に関する修正点をまとめ公表した. また申請者にわかりやすいように Q&A スタイルでまとめ, ホームページ上に公表した. 手術記録にあたっては医療法施行規則に準じての記載を必須とした. また個人情報保護法の遵守のため, 本年は症例報告提出の際に, 患者氏名, 生年月日が消去あるいは容易には確認できない状態にして提出を指示した.

2) 申請作業は構築した申請システムを用いて, 昨年同様の秋からの申請, その後の審査を委員に依頼し判定を行った. 生じた疑義に関しては新しい判定基準に基づき再審査し, 最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行った.

結果は理事会に報告し最終決定とし, 本人に対して結果発表を行った.

不合格者には, 不合格理由を記した書面を交付した. 認定証の交付は, 4 月 1 日付けで交付. 結果に対する異議がある場合には異議申し立てを行うこととし, 規定の期限内に申し立てを受けることとした.

また本年度の申請においても, 生じた問題点, 疑義解釈に対しては, 昨年度同様に翌年度以降の委員会への申し送りをを行った.

(10) 医療 DX 推進小委員会 (菊地 勘委員長)

1) 2025 年度 第 1 回 医療 DX 推進小委員会の開催

日時: 2025 年 8 月 6 日 (水) 17:00~17:45

場所: WEB 会議

出席者 委員: 菊地 勘, 阿部雅紀, 井上朋子, 岩藤和広, 長沼俊秀, 長谷川毅, 宮崎真理子

外部委員: 岡田美保子

オブザーバー:

厚生労働省医政局医療情報担当参事官室 室長 新畑覚也, 医療情報担当参事官室担当者

MT JAPAN (日本医療機器テクノロジー協会) 透析情報の標準規格開発ワーキンググループ

主査 岡谷紀和, 副主査 青島正浩

会議内容: 医療 DX 推進小委員会を設置した経緯と今後の活動について

委員長 菊地 勘より医療 DX について以下の説明が行われた.

- ・既存部分である電子レセプト情報を用いた診療/薬剤情報や特定健診等情報を医療機関での閲覧について
- ・新規部分である電子カルテ情報共有サービス, 標準型電子カルテについて
- ・令和 4 年度厚生労働省行政推進調査事業「透析情報の標準規格開発並びに透析診療施設間の連携を支援する標準化に関する研究」のこれまでの活動について
- ・透析情報標準 HL7 FHIR 記述仕様策定の経緯と厚生労働省標準規格「透析情報標準 HL7 FHIR 記述仕様」の認定について
- ・透析医療 DX を推進する意義について
- ・透析情報標準 HL7 FHIR 記述仕様 Ver. 1.03 について
- ・今後の医療 DX の展開と委員会の活動方針について

2) 医療 DX 推進小委員会と MT JAPAN の打ち合わせ

厚生労働省標準規格「透析情報標準 HL7 FHIR 記述仕様」追加項目の事前協議と整理

日時: 2025 年 12 月 18 日 (木) 15:00~17:30

場所: 下落合クリニック 会議室

参加者：医療 DX 推進小委員会委員長 菊地 勘，外部委員 岡田美保子
MT JAPAN 岡谷紀和，青島正浩

会議内容：① データ保存基盤について
② データ連携フローについて
③ データ参照方法について
④ 標準化マスターについて

- 3) 第7回 NeXEHRs シンポジウム～救急・災害時医療を支える PHR と電子カルテ～での講演
医療機関（含む大学病院），企業，研究機関，自治体・行政，大学，団体など約 200 名を対象とした
医療 DX に関するシンポジウムで講演を行った。

日時：2025 年 12 月 2 日（火）13：30～15：30

場所：GLOBAL LIFESCIENCE HUB カンファレンスルーム（日本橋）

演題：透析医療の未来を支える DX～災害に強い医療体制の構築を目指して～

日本透析医学会 理事（医療 DX 推進小委員会 委員長）・下落合クリニック 院長 菊地 勘

- 4) 救急領域での PHR（Personal Health Record）・電子カルテ情報連携に関する AMED との会議

日時：2026 年 3 月 4 日（水）14：30～15：30

場所：Zoom 会議

出席者：菊地 勘，横川裕大（東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座救急医学分野助教），
AMED 関連スタッフ

会議内容：① 透析医療における医療 DX の現状と災害時透析医療への活用について
② 透析情報を PHR に適用していくために必要な情報と可能性について

- 5) 厚生労働省医政局医療情報担当参事官室の担当交代と今後の方向性についての会議

日時：2026 年 3 月 27 日（金）10：00～

場所：Microsoft Teams 会議

出席者：医療 DX 推進小委員会 菊地 勘

厚生労働省医政局医療情報担当参事官室

前室長 新畑覚也（2026 年 3 月 31 日まで）

新室長 長嶺由衣子（2026 年 4 月 1 日から）

会議内容：参事官室室長が交代となった。

新たな室長のもと，医療 DX 推進小委員会とは，必要時に情報共有を行いながら，透析医療 DX を進めていくことが確認された。

2026 年度に医療 DX 推進小委員会が行う，透析施設における医療 DX の現況に関するアンケートの結果は共有する。

2026 年の日本透析医学会学術集会・総会の委員会企画の演者は，新畑覚也室長から長嶺由衣子室長に変更となる。

2. 財務委員会

2025 年度事業として，日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また，各事業に対して経費節減を心がけ，2026 年度予算を作成した。

3. 編集委員会

- 1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 57巻をもって冊子体の発行を終了し、58巻1号（2025年1月28日発行）より、科学技術振興機構が運営する論文プラットフォーム、J-STAGEによる電子版のみでの発行となった。
- (2) 日本透析医学会雑誌を毎月1号、年間12号をJ-STAGEにて公開した。
- (3) 第70回学術集会・総会特別号（抄録集・Supplement）を学会ホームページの抄録アーカイブサイトに公開した。
- (4) 委員会報告として以下の5編を掲載した。
 - 58巻7号「統計調査委員会報告：2022年末値分析訂正と2023年末の透析有病率・罹患率・死亡率についての分析」
 - 58巻7号「男女共同参画推進委員会報告：2023年度透析専門医勤務状況—透析療法領域における男女共同参画実態調査—」
 - 58巻8号「学術委員会報告：血液浄化器（中空糸型）の機能分類2025」
 - 58巻9号「危機管理委員会報告：地域における災害時透析医療確保の取り組み」
 - 59巻3号「危機管理委員会報告：次亜塩素酸ナトリウム溶液と酸性溶液の誤混入による塩素ガス発生事故に関する全国透析施設の実態調査報告」
- (5) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況（2024年12月31日現在）」を58巻12号に掲載した。
- (6) 学術委員会の「Dialysis Therapy, 2024 year in review」を58巻12号に掲載した。
- (7) 2025年度の掲載論文数は、原著19編、総説2編、症例報告25編、その他（短報、透析看護・技術、研究速報、ガイドライン・委員会報告、Letter to editorなど）12編の計58編の掲載であった。

2) 公式欧文誌「Renal Replacement Therapy」(RRT) について

- (1) 引き続きオンラインのOpen Access Journal（著作権はCC-BY）として発行した。
- (2) Scopus, DOAJ, Web of Scienceなどの主要なAbstract & Indexingサイトに収載されている。
- (3) 2025年6月にJournal Citation Reports (JCR) のImpact Factor 1.0が付与された。
- (4) PMC (PubMed Central) への収載再申請を行うため、準備を進めている。2026年4月以降再申請予定。
- (5) MEDLINEについては、MEDLINEのポリシーにより、過去2年以内にPMCにrejectされたジャーナルは申請できないこととなっているため、未申請の状態である。
- (6) 2025年1月～2025年12月は299編の論文投稿があった（2024年の254編から15%増）。掲載論文数は101編であった（2024年の77編から24%増）。
- (7) 2025年1月～2025年12月までの集計では、論文採択率は31%であった（2024年は33%）。
- (8) 2025年1月～2025年12月までの集計では、わが国を含む世界33カ国からの投稿があった（2024年は40カ国）。
- (9) 2024年10月15日に査読投稿システムがSnappに変更された。EMで審査中の論文は最終判定が出揃い、現在は論文審査はすべてSnappで行われている。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

2025年度学会賞（木本賞）・奨励賞の候補論文の選考学術委員の投票で候補論文をofficial journal『日本透析医学会雑誌』57巻（2024年発行）とRenal Replacement Therapy (RRT) Vol.10 2025の中から合計10編の候補論文を選定した。4月5日までに評議員に10編の中から推薦論文2編（1位、2位）を選出し、その集計結果と、別に募集した公募論文（7編）の中から2025年4月11日の学術委員会で、木本賞と奨励賞を選出した。評議員投票で得票の多かった阿部雅紀先生の論文を木本賞、学術委員会委員から得票の多かった蘇原映誠先生の論文を木本賞、奨励賞には神谷圭介先生の論文の計3編とすることで、全会一致で了承され

た。受賞論文は、第70回日本透析医学会学術集会・総会で発表し表彰した。2026年度学会賞（木本賞）・奨励賞の候補論文の選考を2025年1月26日に開始した。

2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

以下の学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行した。

3) 栄養問題検討ワーキンググループ（神田英一郎グループ長）

課題① 慢性透析患者の栄養素摂取量の評価および予後の調査（SUDACHI STUDY）

慢性透析患者の栄養素摂取量および予後の関係性を評価するため、大塚製薬工場との多施設共同前向きコホート研究（SUDACHI STUDY）を継続している。研究代表者は脇野 修学術委員会委員長、Steering committeeは日本透析医学会栄養問題ワーキンググループである。ベースラインデータの解析を開始した。

また、これまで得られたデータの解析結果を、第70回日本透析医学会学術集会・総会にて、学会・委員会企画9「透析患者の栄養状態を解明する -SUDACHI study-」として発表した。

4) 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキンググループ（倉賀野隆裕グループ長）

「慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン」について原案を作成し、外部評価委員会に提出し、修正を加えた。2026年3月に開催された理事会に原案を提出した。

5) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキンググループ（脇野 修グループ長）

2024年度からの引継ぎ事案として、本ガイドラインの3に関しては「改訂案承認の前提としてガイドライン採用論文において研究デザインに関する correction の提出とその雑誌への掲載が必要」と2月1日理事会で結論された。同時に2025年3月18日「コホート研究における Prospective・Retrospective の判断と JRDR データの位置づけについて」が理事長より声明された。2025年度はこれらの理事会審議結果、理事長声明について、委員会で真摯に対応を開始した。journalへの correction 申請およびその掲載に時間がかかったが、根気よくかつ適切に修正が加えられた。そして最終改訂案を2025年9月10日、再度、「慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン（2025年改訂版）のパブコメに関する委員会」「JRDRの検証委員会」の2臨時委員会委員、顧問、理事に回覧し、最終的に、関連学会（日本腎臓学会、日本小児腎臓病学会、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本CKD-MBD学会、日本臨床腎移植学会）の協力も得て、最終文言となった。この最終案が2025年12月12日2025年度第3回理事会で承認された。この結果を受け12月26日慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン（2025年改訂版）がホームページ上に掲載された。さらに日本透析医学会雑誌に投稿し、2026年度の4号発行に4月28日掲載予定となった。

6) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ（阿部雅紀グループ長）

2025年の日本透析医学会学術集会・総会にて、「透析患者の糖尿病治療ガイド2025」が日本透析医学会ブックシリーズ2として発刊された。英文としてRenal Replacement Therapy 誌への掲載に向け、校正作業を行った。

7) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）

シャント系、カフ型カテーテルの使用に関する追補に関して、グループ内に2つの班を作り素案を作成中。

8) ウロキナーゼ供給困難下におけるVA血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）

血栓溶解剤ウロキナーゼ（UK）の出荷停止に伴うVA血栓性閉塞に対する治療法に関して、招集されたワーキンググループ。まずは関連学会の協力も仰ぎ、UK使用困難な状況下での会員の対応策をアンケート調査した。日本透析医学会誌にまずはアンケート結果を2025年1月号、その後シャント、カテーテルの治療に対する文献検索を2025年2月号に掲載した。UK使用困難に伴い再建術などの増加があり、長期間の安定したHDのために危惧される内容となっている。シャント系血栓性閉塞に関してはウロキナーゼの代替薬となり得る（海外のガイドラインでは使用法が掲載されている）t-PAの本邦への導入を目指して現在厚生労働省との面談を重ねている状況であるが、本邦への原末の輸入量に制限があり販売社からは本来の適応であ

る脳梗塞等の治療に支障をきたす可能性もありうるためにVA閉塞への使用は避けてほしいとの要望もあり、進展が乏しい状況。また血栓吸引デバイスに関しては販売社（導入検討していたある製品）による本邦への導入はコストが見合わないために見送りと報告あり、こちらも停止している。

このようなことから本ワーキンググループは終了とし、適切な委員会での厚生労働省との折衝の継続を行う方針。

9) 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会（酒井 謙委員長）

提言作成委員会は、第69回日本透析医学会学術集会・総会において、第1回のOfficialな会議を経て、構成メンバーの拡充に努め、現在まで第17回の議事（各方面の30余名の委員からなる）が進行した。第70回日本透析医学会学術集会・総会にて、提言の総論部分（下記1~5）が示された。

日本透析医学会では、2014年に「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」で、「維持血液透析の見合わせ」について検討する状態を示した。さらに2020年には、「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」を学会として社会に公表し、SDM、ACPに加え、CKMの概念は、腎臓内科医、透析医のみならず、一般社会にも広まってきた。CKMの自己意思決定に関するプロセスは、この第2回の提言に盛り込まれ、英文誌（RRT）にも掲載された。このような状況下、2025年9月には、日本緩和医療学会、日本腎臓学会、日本透析医学会の3学会による「腎不全患者のための緩和ケアガイドダンス」が公表された。

今回この委員会においては、CKMの技術的な問題、わが国の世界における立ち位置、地域社会的問題、緩和透析、法制度的問題、EOLケアまでを、根拠をもって明らかにし、わが国における腎不全医療における緩和ケアの位置づけと方法論を明確にする。

【主な討議内容】

1. 本邦における社会的な問題点（医療倫理）
2. 本邦における法律上の問題点（自殺ほう助、自殺教唆）
3. 生存権 患者の権利、認知症患者の生存権
4. CKMの腎不全医療における位置付け
5. 腎代替療法との比較（4つの選択肢と並立か否か）、説明時期
6. 医療とケアの問題点
7. 薬物療法
8. 非薬物療法
9. 精神・心理・霊的療法など
10. 緩和透析
11. 在宅への移行 在宅医療の実際
12. 小児、グリーフケア

【診療報酬】なお、緩和ケア病棟への入院、一般病棟入院患者への緩和ケアチームによる診療加算、在宅医療での麻薬使用に関する診療報酬等に関しては、R8保険収載改定を待つことになっているため、今後の文言作成に留意する。

10) 透析患者の血圧管理に関する診療指針策定委員会（平和伸仁委員長）

令和7年4月11日に学術委員会委員長とコアメンバーによる方針を検討。同8月28日に令和7年度第1回会議を開催。2025年末の統計調査委員会への依頼事項、血圧管理に関するCQの作成方法、家庭血圧前向きコホートに関する検討、後ろ向き研究の可能性、血圧管理に関する指標の必要性などを検討した。また、第71回日本透析医学会学術集会・総会における委員会企画案を検討した。統計に関する視点から福島県立医科大学 栗田宜明教授を新メンバーに招聘することが決定した。令和7年10月30日第2回会議を開催。血圧管理に関するCQについて評議員に対してアンケートをすることを決定。前向きコホート作成に関する課題、後ろ向き研究に関する可能性を検討・共有。第71回日本透析医学会学術集会・総会における委員会企画

案を確定した。令和7年12月25日第3回会議を開催。血圧管理に関するCQ案に対するアンケート結果を5つのグループに分けて検討。まとめを発表するとともに、課題と今後のすすめかたを検討。令和8年2月26日第4回会議を開催。CQ作成に対する課題を検討。確定すべき定義、エビデンスがある程度確認できる課題の検討、日本透析医学会学術集会・総会に向けた会員への協力要請、統計調査資料研究に関する準備、前向きコホート研究の具体案や方針を検討した。

11) Green Dialysis に関する検討委員会（脇野 修委員長）

2026年4月28日（月）第1回合同 Green Dialysis に関する検討委員会が開催された。テーマを7つにわけ、それを2つの班に分けて議論することが提案された。すなわちA班は透析機械、廃棄物処理、水利用、電気利用、B班は薬剤（栄養療法も含む）、患者移動、その他の人的、経済的浪費とA班は主に医工系、B班は主に医薬系の内容について協議するものと分担案が提案された。そのうえでA班は友委員、B班は脇野委員長が班長として活動することが提案され、了承された。2027年の第72回日本透析医学会学術集会・総会を提言の目標に置き、その間学術集会・総会も含め、年3~4回の委員会を行い提言（案）をまとめていくこととなった。脇野班はその後第2回7月8日、第3回11月25日、友班は第2回7月7日、第3回9月28日、第4回11月28日班会議が開催され、議論すべき内容について話し合わせ、提言の章立ての素案に関し議論がなされた。2班の活動で、提言の章立ておよび執筆者が以下のように決定された（敬称略）。

はじめに、緒言（友）、本提言の意義（脇野）

第1章 総論—Green Nephrology/Dialysis に関する基本事項—

世界における Green Dialysis（川西）、Green Dialysis から見た慢性腎臓病医療と腎代替療法（脇野、古久保）、CFP と water footprint 水利用からみた Green Dialysis（山下）、Green Dialysis の論ずる範囲—輸入、製造ラインとそのコスト—（久野）

第2章 血液透析における Green Dialysis

廃棄物（川西、水口 斉、番匠谷、久野）、透析排水（友、峰島、長沼）、製品（機械と消耗品、輸送）（今井、甲、武本）、血液透析（透析に関わる水・電力等）（山下、水口 潤、本間、小川）

第3章 腹膜透析における Green Dialysis

PD 液処方改革（主：鷲田、古久保、副：小岩、竹内）、PD 液保存（主：浦田、山下）、PD 医療 DX（主：金子、鷲田）、PD 製造システム（主：高木、小岩、副：山下、金津）、PD 液ロジスティックス（主：金津、山下、副：金子、高木）、PD 薬事法規（主：山下、副：脇野）

第4章 透析医療における薬剤に関する Green Dialysis

処方改革（主：小岩、竹内、永野）、薬剤保存（主：竹内、脇野）、医薬連携（主：甲田、古久保、永野、副：浦田）、医療 DX（主：久野、竹内、副：鷲田）、薬剤製造（主：磯部、副：脇野）、薬事法規（主：竹内、副：脇野）

各章構成は提言、要約、解説、文献となり、できればCFPのデータを組み込み、学術文献だけでなく、実践例などを紹介してもらうこととした。本案は2026年3月1日に開催された第2回合同 Green Dialysis に関する検討委員会で承認された。この第2回合同委員会ではマイルストーンの紹介がなされ、6月の日本透析医学会学術集会・総会で全員の会合、8月半ばの一時的な完成、JSPDでの発表、2026年12月から2027年3月までの関係学会での査読を行い内容の調節を行い、2027年5月27日からの総会で発表されることが、報告された。各班の委員会は5月に1回行う予定を考えている。日本透析医会に日本透析医学会の提言を査読していただくこと、患者会への査読依頼は控えたほうが良いという意見が出された。ある程度まとまった形で日本透析医会や関係団体に査読をお願いすべきであるという方向となった。

12) 小委員会活動

(1) 学術委員会 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）

1. 2015年から開催している Dialysis therapy, year in review 2024 を第70回日本透析医学会学術集会・総会（2025年6月27日）において委員会企画として開催した。

司会：脇野 修（徳島大学），小岩文彦（昭和大学藤が丘病院）

1) HD, HDF 小川智也（埼玉医科大学），2) バスキュラーアクセス 水口 斉（防衛医科大学），
3) 腹膜透析 伊藤恭彦（愛知医科大学），4) 感染症 菊地 勘（下落合クリニック），5) 肺高血圧
症，バスキュラーアクセスと心疾患 藤崎毅一郎（飯塚病院），6) 栄養 神田英一郎（川崎医科大学），
7) 貧血 倉賀野隆裕（兵庫医科大学），8) CKD-MBD 新潟大学（山本 卓），9) 糖尿病 阿
部雅紀（日本大学）

2. 各演者の先生に Dialysis Therapy, 2024 year in review の発表内容を原稿にして透析会誌に投稿を依
頼して 58 巻 12 号に掲載した。

(2) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

1. 臨床系 4 委員，工学系 4 委員で，委員会活動を継続した。

2. 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会（令和 7 年 6 月）では，委員会企画「新技術で貢献するいの
ち輝く次世代人工腎臓治療への挑戦」で各委員の研究成果を公表した。例年を遥かに超える聴衆から
好評を得た。

3. 第 34 回日本次世代人工腎臓研究会（令和 7 年 10 月），第 5 回日本腎・血液浄化 AI 学会（同 10 月），
第 63 回日本人工臓器学会（同 11 月），第 9 回 I-HDF 研究会（同 12 月）においても一部の委員が小
委員会での検討結果を公表した。

(3) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）

① 日本透析医学会，日本透析医会，JACE（日本臨床工学技士会）との 3 団体共同「透析排液管理ワー
キンググループ（峰島三千男グループ長）」：透析排水の適正管理についてさらなる検討を行った。

② ISO・IEC 対策ワーキンググループ（川西秀樹グループ長）：日本の見解を反映させるべく，日本医療
機器テクノロジー協会（MTJAPAN），日本臨床工学技士会と協力して，ISO・IEC 会議に委員を派
遣し討議を行った。

③ 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会にて，学術委員会：血液浄化の機能と効率に関する委員会企
画「血液浄化器（中空糸型）機能分類の改訂に向けて」を開催し，「血液透析膜 ダイアライザの S
型の認定に向けて」等について議論を行った。

④ 「学術委員会報告：血液浄化器（中空糸型）の機能分類 2025」を透析会誌に発表した。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（鷺田直輝委員長）

① 体験参加型セッションの開催

② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催

① については，2025 年度は第 31 回日本腹膜透析医学会学術集会にて，腹膜透析タスクシェアーのた
めの教育法を考える「日本全国各施設での PD の実際とチーム医療」（医師・スタッフ教育体験参加型
セッション）として，全国の医科大学 6 校が参加して開催され，現状の課題が浮き彫りになった。

② については，2025 年度の第 70 回日本透析医学会学術集会・総会において，委員会企画として，
セッションタイトル「医師の働き方改革やタスクシェアリングの発展のための課題」というセミナーを
開催した。現状の課題が山積している現状を把握し，2026 年度の第 71 回日本透析医学会学術集会・総
会でも同様のセッションを企画し，具体的な改革案を検討する予定である。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（脇野 修委員長）

令和 7 年度の研究助成 2 件，花岡吾子（大阪公立大学医学部附属病院医療機器部・臨床工学技士）「人工
知能（Artificial Intelligence：AI）を用いたシャント音からのバスキュラーアクセス不全の診断」および
西海 創（川崎医科大学総合医療センター ME センター・臨床工学技士）「超音波エコーと機械学習を活
用した持続的腎代替療法回路の凝血トラブル予測手法の開発」を第 69 回日本透析医学会学術集会・総会
で表彰した。令和 8 年度のコメディカルスタッフ研究助成基金の申請受付を行ったところ 10 件の申請があ
った。2 月 10 日から開始した 5 名の委員の先生による審査の結果，千葉裕基（北海道大学病院臨床工学技

士), 中井浩司 (中部大学生命健康科学部臨床工学科・臨床工学技士), 小野淳一 (川崎医療福祉大学医療技術学部臨床工学科・臨床工学技士) の3名の研究, 計3件に助成することを4月8日決定した。

(6) 透析医学用語集作成小委員会 (脇野 修委員長)

2026年1月13日2025年度日本医学会分科会用語委員会が開催され, 参加した。ICD-10からICD-11への変更作業の進捗が報告された。各学会に依頼が来ると連絡を受け, 対応していく。

5. 統計調査委員会

1) 2024年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査と報告

①「わが国の慢性透析療法の現況 (2024年12月31日現在)」を日本透析医学会雑誌58巻12号に掲載し, 学会ホームページの「わが国の慢性透析療法の現況」ページに上記報告のPDFと図表のPPTファイルも掲載した。

②「わが国の慢性透析療法の現況 (2024年12月31日現在 CD-ROM版)」は調査協力非会員施設への郵送を廃止し, 学会ホームページの統計調査専用サイトに掲載した (施設会員は学会ホームページ会員専用ページと統計調査専用サイトの両方で閲覧可能)。

③上記現況報告の英文化・RRT誌への投稿作業中である。

④2024年調査結果を統計調査データベース, WADDAシステム (自動集計, 研究データ切出し) に取り込み, 学会ホームページの会員専用ページでWADDAシステム (自動集計) の2024年版を公開した。

2) 「わが国の慢性透析療法の現況 (2022年12月31日現在)」を Annual Dialysis Data Report 2022, JSDT Renal Data Registry (JRDR) として, Renal Replacement Therapy (2024)

Article number : 11 : 54 (2025), doi.org/10.1186/s41100-025-00646-3 として掲載した。

3) 2025年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施

①2025年の調査計画について倫理審査を依頼し, 承認後UMINに公開した。

②統計調査入力用ファイルのダウンロード・アップロードシステムを運用しているが, 希望する施設にはファイルを収めたUSBの郵送も行った。EDCシステムについては引き続き検討課題とした。

③全国の透析施設に対して2024年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施した。VAアクセス等の新規調査を行った。

④2026年4月1日現在収集作業中であるが, ほぼ例年並みの回収状況である。

4) WADDAシステム, 学術研究用データ切出しシステムの改善

①学術研究用データ切出しシステムについて, 2012年データの再取込を行った。

5) 統計調査管理台帳システムの改善

①統計調査ファイルのダウンロード・アップロードシステム導入に伴う統計調査管理台帳システムの改修を行った。

6) EDC (Electronic Data Capture) について引き続き検討課題とした。

7) 第70回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催・企画した。

①統計調査委員会企画「WADDAシステムをどう使いこなすか」「JSDT統計調査データを用いた臨床研究」

8) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化

①学術委員会等他委員会と協力の上, JRDRデータベースの解析, 論文化を解析小委員会中心に行った。

②2025年はJRDRを用いた研究結果, 英文4編, 和文1編が掲載された。

9) 統計調査結果のホームページの充実

①JRDRの調査結果を広く海外に発信するために, 英語版ホームページの充実に努めた。

10) 国内・国際協力の推進

(1) 米国腎臓データシステム (USRDS) に対して, データ提供を行った。

- (2) 国際腎臓学会 (ISN) 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR への参加を行い、Web 会議で意見を交換した。

統計解析小委員会

- (1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。
 (2) JRDR を用いた研究計画および他団体・他学会から申請のあった研究計画について審議した。

地域協力小委員会

- (1) 2025 年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話や FAX による督促を行った。

6. 専門医制度委員会

1) 令和 7 年度 第 36 回専門医認定試験結果に関する件

2025 年度 専門医認定申請書類審査について

2025 年度第 36 回専門医新規申請者 309 名であった。受験者は 294 名（前年比 +27 名）症例要約審査員 42 名、口頭試問を 16 試験室（各 2 名）で実施した。249 名を合格（合格率 80.6% 前年比マイナス 1.4%）とした。症例要約得点 + 筆記試験得点 + 口頭試問減点 + 個人情報保護法抵触減点 = 総合評価を例年通り行った。（坂口美佳 専門医試験小委員会委員長）

現行の専門医制度細則の臨床経験の規定として、専門医申請においては週 5 日以上教育指定病院、ないしは教育関連病院の勤務が必要（それ以下の場合は、勤務換算率が下がる）としている。しかし働き方改革における現実を踏まえ、週 3 ないし 4 日の勤務を許容する医療機関・施設も増加しているため、この規定を改訂する必要がある、理事会での審議が必要と決した。

2) 認定施設・教育関連施設の新規認定、更新に関する件

認定施設・教育関連施設の新規申請および令和 7 年度認定施設・教育関連施設の更新認定について、次のとおり説明があり、小委員会審議の結果、専門医制度委員会全会一致で承認された。

(1) 令和 7 年度 第 36 回認定施設・教育関連施設の新規認定

	認定施設	教育関連施設	合計
申請施設数	12	60	72
不適格施設数	0	0	0
適格施設数	12	60	72

(2) 令和 7 年度 認定施設・教育関連施設の更新認定

	認定施設	教育関連施設	合計
更新対象施設数	82	132	214
更新申請施設数	78	114	192
更新辞退施設数	1	8	9
更新認定施設数	78	114	192
認定区分変更予定施設数	3	10	13

3) セルフトレーニング問題の WEB 化に関する件

2026 年度からセルフトレーニング問題の WEB 化の実施を進めていきたい。また、現在の手数料 2,000 円を 3,000 円に改訂する審議の結果、専門医制度委員会全会一致で承認された。その後このセルフトレーニング問題の WEB 化は、2026 年 3 月の理事会で決定された。

4) カリキュラム小委員会（平和伸仁小委員会委員長）

第 6 版 専門研修指導マニュアル、専門研修トレーニング問題は 2025 年に発刊された。トレーニング問題においては疑義照会が多く、指導マニュアル（あたらしいガイドライン、疫学、統計）をよく参照して、問題作成の最新化を図ることになった。

その他) 日本専門医機構サブスペシャリティ領域懇談会(8月20日)を踏まえた意見書の提出について

- ① 2025年9月に出した意見書【3つの質問】の提出をしたが、日本専門医機構からの回答について、2026年3月末で未着である。サブスペ認定は内科学会(基本領域サブスペ連絡協議会)での話し合いを行うべきとのこれまでの機構の一貫した回答に対しての質問状であった。
- ② 以下にその質問状の内容抜粋を記す。

新規のカテゴリー3においては、基本領域の内科学会、泌尿器科学会のそれぞれの専門医が、内科外科共通のカリキュラム・プログラムを通して、基本領域サブスペ連絡協議会の認定が受けられると理解しました。

- 1) 日本透析医学会専門医は、カテゴリー1, TYPEⅢ(病理や臨床検査等)ではなく、TYPEⅡ:臓器横断的領域分類(総合診療等)を希望しますがいかがでしょうか?
- 2) 内科・外科, 小児科, 総合診療科に渡る横断型技術において、今後も内科学会(連絡協議会)のみでの話し合いが必要になりますでしょうか。従来の連絡協議会との話し合いでは、日本透析医学会は、日本腎臓学会の補完研修であるべき位置づけでした。この主張は数年変化なく、関係する領域学会と連絡協議会でご検討を、の繰り返しで前に進めません。
- 3) カテゴリー1 基本領域サブスペ連絡協議会の推薦
カテゴリー2 基本領域サブスペ連絡協議会の指定
カテゴリー3 基本領域サブスペ連絡協議会の認定

となっています。日本透析医学会の基本領域サブスペ連絡協議会は内科学会であり、専門医機構がカテゴリーの末尾をどう変えても(推薦, 指定, 認定), 申請までの全権限を内科学会が強く持っている状況です。複数領域にまたがる場合、基本領域サブスペ連絡協議会に複数の領域学会が委員として参画できず、前に進めません。基本領域サブスペ連絡協議会への関連学会の全ての参画並びに対等な関係になるような制度設計を強く求めたいと思っておりますがいかがでしょうか。

日本透析医学会はその厳格な専門医試験制度, 更新制度を通して、34万人の維持透析の患者の生命健康維持に従事している。1991年に制度発足し、透析専門医は現在6,596名, 同指導医2,024名(2024年11月現在)が存在する。上記のごとく、嬉々として進まないサブスペ領域の状況において、今後日本専門医機構の方針には留意しつつも、機構とは距離を置いた立ち位置で、日本透析医学会の専門医制度を進めていく意思決定が、理事会でも承認されている。

7. 国際学術交流委員会

- 1) 第70回日本透析医学会学術集会・総会において国際学術交流委員会として下記の企画を実施した。

- (1) Symposium1. Newest renal registry data of end stage renal disease of every country in Asia Chairs :
平和伸仁, 兵藤 透

【GI-20-1】 End-stage kidney disease in Indonesia : a report from Indonesia renal registry
[演者] Aida Lydia Sutrananto : Division of Nephrology and Hypertension, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Universitas Indonesia

【GI-20-2】 Renal registry and reimbursement data of end stage renal disease of Thailand
[演者] Kearkiat Praditpornsilpa : Chulalongkorn University

【GI-20-3】 Serum Hepcidin and TIBC in End-stage Chronic Kidney Disease
[演者] Do Manh Ha : Organ Transplant Center, Military Hospital 103

【GI-20-4】 Acquiring Dialysis Registry Data of End Stage Renal Disease in Mongolia
[演者] Saruultuvshin Adiya : Mongolia Japan Hospital, Mongolian National University of Medical Sciences

- 【GI-20-5】 Newest renal registry data of end-stage kidney disease in Japan
 [演者] Takao Masaki : Department of Nephrology, Hiroshima University Hospital
- 【GI-20-6】 Taiwan's Contribution to Renal Care : Insights from the Dialysis Registry
 [演者] Mei-Yi Wu : Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Shuang Ho Hospital, Taipei Medical University, Taiwan
- (2) Symposium2. Problems in the selection and treatment of renal replacement therapy Chairs : 鶴屋和彦, 長田太助
- 【GI-21-1】 Dialysis therapy in India challenges and management
 [演者] Georgi Abraham : TANKER Foundation and MGM Health Care
- 【GI-21-2】 Problems in the selection and treatment of renal replacement therapy of Myanmar
 [演者] Khin Thida Thwin : Consultant Nephrologist, Asia Royal Hospital Yangon, Myanmar
- 【GI-21-3】 Barriers in the selection and treatment of renal replacement therapy in Cambodia
 [演者] Pichthida Thim : Cambodian Association of Nephrology, University of Puthisastra, Khmer Kid Pediatric Clinic
- 【GI-21-4】 Situation Vascular Access for Hemodialysis in Laos
 [演者] Chanmaly Keomany : Mittaphab Hospital
- 【GI-21-5】 Renal replacement therapy options from the perspective of CKD-MBD
 [演者] Markus Ketteler : Robert-Bosch-Hospital Stuttgart, Germany
- 【GI-21-6】 Cognitive Function and Vascular Disease in Dialysis
 [演者] Mark Sarnak : Tufts Medical Center, Boston MA

(3) 一般講演 Free Communications

公募を行い第1日目(6月27日)に Oral presentation 4セッション(24演題), 第2日目に Oral presentation 4セッション(22演題)に加え, 第3日目に Poster presentation として1セッション(7演題)の応募・講演があった。年齢制限付きで中位および下位所得国からの参加者へ travel grant を提供した。

(4) Farewell Reception

大会2日目夜に開催され, 総会に参加された海外からの参加者およびその家族を理事長, 大会長, 評議員, 委員にてお迎えして, 学術交流及び友情を深めた。

2) 国際交流派遣事業国際交流派遣事業

海外関連学会へ交流委員は派遣しなかった。

3) その他

令和7年3月28日に発生したミャンマー地震において, 国際学術交流委員会にて交流のある施設を含めた透析施設や環境が大きな被害を受けた。これに対して, 本年度にかけて臨床工学推進国際財団, 日本血液浄化技術学会とともに本学会から透析関連消耗品の寄贈を行った。これらに関連して, 当委員会も協力を行った。国内外で開催される, 関連国際学会へ各委員が独自に参加した。

8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第8回評議員選挙

日本透析医学会定款第20条, 21条, 22条及び日本透析医学会定款施行細則第14条, 15条, 16条並びに日本透析医学会評議員選出規則に則り第8回評議員の選出を行った。

- 1) 評議員選出規則第3条に基づき, 選挙は全国統一地区と7の地方区に分けて行った。
- 2) 同規則第6条に基づき, 定数220名の評議員を選出しその内80名は全国区, 140名は地方区とした。
- 3) 同規則第7条に基づき, 10月1日付けで電子公告により選挙の公示を行った。

- 4) 同規則第9条第1項に基づき、令和7年10月1日現在の有権者名簿を10月1日付けで電子公告により公示を行った。
- 5) 立候補者しようとする者に、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率）並びに立候補者の得票及び得票率を開示することを前もって周知した。
- 6) 同条第2項に基づき、11月20日までに有権者名簿について、異議の申し立てを受けた。
- 7) 同規則第11条第1項に基づき、11月20日までに立候補の届け出を受けたが、届出期限である11月20日以降に1名の届出があり、届出を認めないこととした。
- 8) 同条第4項に基づき、12月1日までに立候補の辞退を受け付けたが、1名の届出があり、辞退を認めた。
- 9) 同規則第12条に基づき、候補者の氏名を12月1日付けで電子公告により公示を行った。
- 10) 同規則第13条に基づき、令和8年2月15日に投票を締め切った。
- 11) 同規則第16条に基づき、投票終了後令和8年2月21日に開票立会人のもとに、開票を行った。
- 12) 同規則第21条に基づき、当選者が決定した後、当選者に通知し、電子公告により公示を行った。また、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率）並びに立候補者の得票数及び得票率を開示した。
- 13) 同規則第22条に基づき、選挙結果発表日より14日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受け付けた。

9. 保険委員会

令和8年度改定の最終要望提出並びにその審査の年度であり、対応を行った。

1) 外科系学会社会保険委員会連合関連

短期滞在手術等基本料が算定できる手術を拡大要望：当学会関連手術として認可されている項目はK616-4のみ。VAに関わる他の手術（カフ型カテ留置、内シャント造設、バイアバーン留置、AVG、動静脈表在化、結紮術など）も算定対象に加えるよう要望した。メリットとして多くの手術が外来での施行可能にもかかわらず入院で施行されていることから、短期滞在手術等基本料が算定できるようになることで入院室用ベッド数の削減が可能、入院費用の算定がなくなることから医療費の削減の可能性、および高齢者の入院に伴う筋力低下・認知力低下などの予防にもなることをヒアリングでは主張し一定の理解を得た。これに伴いカテーテル挿入がDPC施設・高齢者施設入所者に算定できないことに対する対策としても期待される。

2) 内科系学会社会保険連合関連

非自己管理型在宅血液透析（居宅血液透析）の認可を申請した。これは現在の自己管理が原則である在宅血液透析とは一線を画し、医療従事者が居宅におもむき治療を行う行為と規定した。本申請にあたり非医療機関での医療行為が可能か否か等が問題となるので、厚生労働省の担当部署との相談が必要とされた。今後対応予定。

3) その他

- ・腹膜透析のPDバック交換は本人施行が原則になるも、高齢化などの様々な問題で施行が困難な状況が生まれている。現在はあやふやな状況が継続している。このため日本腹膜透析医学会並びに患者会とも連携し、PDバック交換の家族施行への明文化を厚生労働省へ陳情した。この結果“やむを得ない場合に限り”家族のバック交換を認めるとの判断を頂いた。今後JSPDと協同し、その範囲並びにトレーニング体制の確立を作製する予定。
- ・ウロキナーゼの流通困難を受け、厚生労働省へ同じく血栓溶解剤であるt-PAの透析血栓症への適応拡大を要望した。現時点ではt-PA自体の供給量が少なく対応は困難であるが、厚生労働省としても検討していただけることになった。
- ・透析に使用する薬剤の安定供給に向けて、厚生労働省へ安定供給の体制づくりを強く要望した。一方透析

液剤，ヘパリンなどの抗凝固剤に関してはメーカーからの依頼はあったが，J-038 に包括された薬剤であること，薬剤上昇のみでは相対的にJ-038 の低下となることから，当会としては対応しないことをメーカーに伝えた。

- ・ウロキナーゼ供給困難によって透析シャント血栓症の治療が困難になっていることを学術委員会内のワーキンググループとも協調し，その代替として血栓除去デバイスの本邦への上市をメーカーに相談したが，最終的には導入するにあたり治験が必要なこと，費用回収が見込めないことから断念され，現在この会社との交渉は終了となった。今後，海外では使用できる血栓除去デバイスの本邦への導入を目指して，他社との協議を行う予定。
- ・在宅血液透析で使用する個人用透析液A液の小容量ソフトバッグ化とB液のカートリッジ化の認可を要望する件は，現在カーボンフットプリントの計算など環境問題，運送問題等とも絡めて準備を行っている段階。

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

- (1) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。
- (2) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査2件について，承認し理事長に答申し申請者に通知した。

2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請のあった2件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し，倫理審査委員会に報告した。

3) 個人情報管理

個人情報（評議員，正会員氏名，所属，施設会員名簿）の提供依頼があり

- (1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第4条関係）
8件申請があり，8件を承認した。

11. 腎不全総合対策委員会

- 1) 本委員会では，腎代替療法へのスムーズな移行や，透析・移植患者のQOLの改善を目標に，毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2025年度は，地域の問題を踏まえた腎不全対策をテーマとして，地域の問題，保存期CKD治療の影響，栄養指導，遠隔医療などを盛り込んだ企画として，第70回日本透析医学会学術集会・総会の学会，委員会企画で5人の演者に解説していただいた。

タイトル：「地域を踏まえた腎不全対策を考える」

1. 地域の腎不全医療の実情 岩手医科大学 阿部貴弥先生
2. CKD治療薬の腎不全医療への影響 期待と現実 久留米医科大学 深水 圭先生
3. 透析患者のやる気を引き出す栄養指導 齊藤内科クリニック 坂井敦子先生
4. エコー下ガイドアクセス穿刺の普及を目指す 桃仁会病院 人見泰正先生
5. 遠隔医療技術を用いた腹膜透析管理 長崎大学 西野友哉先生

2) 腎代替療法へのスムーズな移行に関する調査研究の論文化

透析導入前から透析導入期にかけてバスキュラーアクセス作製の実施時期や作製を担当した医師（診療科など），導入期のアクセス使用状況，インターベンションの必要性，などの実態調査を実施した結果を論文化した。日本透析医学会雑誌に投稿中である。

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理, 災害と透析医療をテーマとした学術活動を行うとともに, 災害時には関連団体と緊密に連携し対策を行った.

2) 災害対策小委員会 (山川智之委員長)

(1) 第70回日本透析医学会学術集会・総会 (2025年6月27日~29日, グランキューブ大阪 (大阪国際会議場)) において, 災害に関する危機管理委員会企画を行った.

テーマ: 「透析療法災害対策における広域・行政との連携」

司会: 鶴屋和彦, 山川智之

1) 忠地一輝 (岩手県立胆沢病院泌尿器科) 岩手県における広域・行政との連携

2) 小笠原賢 (青森県立中央病院泌尿器科) 青森県における広域・行政との連携

3) 石垣さやか (浜松医科大学医学部附属病院血液浄化療法部) 静岡県における広域・行政との連携

4) 矢尾 淳 (関東労災病院腎臓内科) 関東圏における広域・行政との連携

5) 米田龍生 (奈良県立医科大学附属病院透析部) 奈良県における広域・行政との連携

6) 水政 透 (うへの病院) 福岡県における広域・行政との連携

7) Yoo Kyung Don (Division of Nephrology, University of Ulsan) Disaster Management in Dialysis Healthcare in South Korea : Collaboration with Regional and Administrative Authorities

(2) 第71回日本透析医学会学術集会・総会 (2026年6月19日~21日, 神戸ポートピアホテル) において, 「大規模地震時医療活動訓練の経験と課題」をテーマとした災害対策に関する危機管理委員会企画を立案した.

(3) 韓国腎臓学会 (KSN) より2025年年次総会 (2025年6月, ソウル市) における災害対策企画の司会と演者派遣の依頼を受け, 東北大学の宮崎真理子先生と浜松医科大学の石垣さやか先生に担当いただいた.

(4) 第69回日本透析医学会学術集会・総会 (2024年) の災害対策小委員会企画の発表内容については, 各発表者に日本透析医学会雑誌への掲載原稿を作成いただき, 2025年9月号に掲載された.

山川智之, 小林真也, 山本 卓, 谷村正信, 田尻哲也, 比嘉 啓, 鶴屋和彦: 危機管理委員会報告: 地域における災害時透析医療確保の取り組み, 透析会誌 2025; 58(9): 406-13.

3) 医療安全対策小委員会 (満生浩司委員長)

(1) 医療事故調査報告制度に協力団体として登録しており, 医療事故調査・支援センターからの依頼があった場合, 調査委員を派遣して事故事例のセンター調査に協力している. 今年度は部会員, 部会長の派遣依頼はなかった.

(2) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し, 必要に応じて委員の更新を行った.

(3) 第70回日本透析医学会学術集会・総会 (2025年6月27日~29日, グランキューブ大阪 (大阪国際会議場)) において, 医療安全に関する危機管理委員会企画を行った.

テーマ: 「透析医療における医療安全のための提言」

司会: 鶴屋和彦, 満生浩司

1) 安藤亮一 (医療法人社団石川記念会腎臓内科) 提言の概要と策定方針

2) 北村温美 (大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部) 医療安全管理体制と医療安全の方策

3) 山家敏彦 (神奈川工科大学健康医療科学部臨床工学科) 透析操作関連事故防止

4) 木全直樹 (中野南口クリニック透析室) 抜針・回路離断事故防止

5) 満生浩司 (九州中央病院腎臓内科) 穿刺・止血関連事故防止

6) 小山貴也 (桑園中央病院血液透析センター) 転倒・転落事故防止

- 7) 古久保拓（仁真会白鷺病院薬剤科）薬剤関連事故防止
- 8) 宮崎真理子（東北大学腎臓内科学）事故後の医療機関における組織的対応
- (4) 「次亜塩素酸ナトリウム溶液と酸性溶液の誤混入による塩素ガス発生事故に関する全国透析施設の実態調査」を郵送で実施し、医療安全対策小委員会において回収した回答を解析した。
- (5) 第71回日本透析医学会学術集会・総会（2026年6月19日～21日、神戸ポートピアホテル）において、上記実態調査の結果をテーマとした医療安全に関する危機管理委員会企画を立案した。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

報告事項なし。

14. 男女共同参画推進委員会

1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会，女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する活動を行っていた。日本透析医学会雑誌2025年58巻7号に「男女共同参画推進委員会報告：2023年度透析専門医勤務状況—透析療法領域における男女共同参画実態調査—」として掲載された。

2) 小委員会

(1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会のそれぞれの働き方改革について各学会の経緯と現状と検討する。本年度は終了できなかったが，引き続き継続していく。

(2) 女性医師育成小委員会

I. 学会・委員会企画「TSUBASA PROJECT」について

第70回日本透析医学会学術集会・総会において，学会・委員会企画7として，「TSUBASA PROJECT」を開催した。

・第9回「TSUBASA PROJECT」に選出された6名の研究結果を発表し，3名（千葉大学医学部附属病院腎臓内科 若林華恵，聖路加国際病院心療内科 種本陽子，長崎大学大学院医歯薬総合研究科腎臓内科学 長崎みなとメディカルセンター 大塚絵美子）の優秀演題賞が選出された。

II. 第10回「TSUBASA PROJECT」について

第10回「TSUBASA PROJECT」を公募した。「TSUBASA PROJECT」は女性医師の研究活動を奨励，援助し，それによって透析医療の向上，女性の活躍を推進させることを目的とし，優れた研究に対して研究助成を行うものである。

第10回「TSUBASA PROJECT」募集要項

当該年度の日本透析医学会学術集会・総会にTSUBASA PROJECT賞として応募された抄録から，優れた演題6件を選出する。抄録は日本語，800文字までとする。選出は女性医師育成小委員会委員により行い，理事会の承認を得る。選出されなかった演題は当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の一般演題に移行する。

1. 応募研究：透析医療に関する基礎研究，臨床研究，未発表論文であること

抄録は日本語，800文字まで。背景，目的，結果，考察を記載すること。

2. 応募資格：日本透析医学会正会員の45歳以下の女性医師

＜他機関の助成中，または助成を受けている場合は当研究の申請は認められない＞

過去に受賞歴のある場合は、受賞回、題目について記載すること。

3. 応募演題：6件
4. 選出報告：当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の委員会セッションで発表。
研究助成として、1件につき10万円を授与する。
5. 優秀演題賞：選出した6件の発表内容から、さらに優秀な3演題を選出し、特別研究助成10万円を授与する。優秀演題の選出は女性医師育成小委員会委員が行い、理事会の承認を得る。
6. 論文化支援助成：TSUBASA PROJECT賞で選出した6件が、2年以内に英文論文化した場合には（日本透析医学会の英文機関誌 *Renal Replacement Therapy* への投稿を推奨する）、30万円までの論文化支援助成金を寄与する。なお、論文化に際してTSUBASA PROJECTの助成を受けたことに対する謝意を明記すること。
7. TSUBASA PROJECT賞、優秀演題賞は学会ホームページに掲載される。

Ⅲ. 「TSUBASA PROJECT」の公報

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し、第70回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載を行った。

15. 感染対策委員会

1) 感染対策委員会

1. 透析患者における結核の現状に関するアンケート調査

2024年5月、日本透析医学会の施設会員を対象に、透析患者における結核の現状に関するアンケート調査を実施した。4,167施設にアンケートを送付し、郵送で1,550件、Webで976件、合計2,526件(回収率60.6%)の回答を得た。その後、本調査結果は査読付き英文誌に投稿し、2025年に *Medicine (Baltimore)* に掲載された。

Yoshifuji A, Kikuchi K, Ando R, Uehara Y, Kanno Y, Kawai T, Masuda N, Morikane K, Nishino T, Sakai K, Takano Y, Ryuzaki M, Wakino S, Takemoto Y, Tomo T. Current tuberculosis status and challenges among dialysis patients in Japan: A nationwide cross-sectional survey. *Medicine (Baltimore)*. 2025. 31; 104 (44): e44903. doi: 10.1097/MD.00000000000044903.

2. 透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関する調査

2024年3月31日で新型コロナワクチンの全額公費による接種は終了した。そして、2024年10月1日から2025年3月31日まで実施された、新型コロナワクチンの定期接種の対象者は、一般は65歳以上、透析患者は60歳以上と対象が限定され、費用についても各自治体において設定した自己負担額が必要となった。そして、60歳未満の透析患者は任意接種となり、費用も全額自己負担となった。

このような背景の変化から、透析患者における新型コロナワクチンの接種状況、感染率、重症化リスクや致死率を、全体や年代別で調査する必要性が高いと考えた。さらに2024年から2025年にかけて、インフルエンザの大規模な流行が発生したことから、インフルエンザについても同様の調査を行う必要が高いと考えた。

2025年4月に「外来維持血液透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況」に関するアンケート調査を実施した。日本透析医学会会員施設4,184施設にアンケート調査を依頼し、2,176件〔郵送1,177件、Web 808件〕の回答を得た。重複回答や維持血液透析を実施していない施設および施設患者数が未回答であった施設を除外し、最終的に1,856件（維持血液透析患者数149,238人）を解析対象とした。

結果、2024年シーズン（2024年10月～2025年3月）の新型コロナワクチン接種率は41.5%であり、2022年シーズン（2022年10月～2023年3月）の接種率95.1%と比較して、半分以下に低下していた。

特に、接種費用が全額自己負担となる60歳未満では、2024年シーズンの接種率は15.2%であり、2022年シーズンの接種率92.1%と比較して、著しく低下していた。

新型コロナウイルス感染後の入院率は13.5%と高率であり、特に75歳以上では20.3%と非常に高率であった。また、致死率は1.9%と依然として高く、特に75歳以上では3.2%と極めて高率であった。

以上より、透析施設および透析患者に対するワクチン接種の啓発を行い、接種率の向上を図ることは重要であると考えられた。さらに、透析患者に対するワクチン接種費用への公的支援について、厚生労働省へ要望する必要があると考えられた。

なお、本アンケート結果は、調査にご協力いただいた会員施設への報告として、2025年10月8日に日本透析医学会のホームページに掲載し、メーリングリストを通じて配信した。

現在、本調査結果は査読付き英文誌に投稿している（2026年4月10日時点）。

3. 厚生労働副大臣への「透析患者における新型コロナワクチン接種に関する要望書」の提出について

日 時：令和7年10月3日（金）10：30～11：00

場 所：厚生労働副大臣室

出席者：厚生労働副大臣 鰐淵洋子, 参議院議員 秋野公造, 理事長 友 雅司, 感染対策委員長 菊地 勘
議 題：

透析患者における新型コロナワクチン接種に関する要望

友理事長、菊地委員長より鰐淵副大臣に資料を用いて、透析患者の入院率、致死率の高さについて説明した。また、令和6年10月より新型コロナワクチンの接種が有料となり、透析患者のワクチン接種率が低下したこと、特に定期接種対象外の60歳未満のワクチン接種率が非常に低下したことを説明した。その後、要望書を手渡した。

4. 感染対策委員会の開催

日 時：令和7年9月22日（月）17：00～18：00

会 議：WEB会議

- ① 感染対策委員会「外来維持血液透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関するアンケート」の結果報告
- ② 2026年の第71回日本透析医学会学術集会・総会における感染対策委員会企画について
企画1：透析患者におけるウイルス感染症の最新知見
企画2：透析患者における耐性菌と感染対策
- ③ 日本呼吸器学会との肺炎球菌ワクチンに関する合同シンポジウムについて
 - ・第71回日本透析医学会学術集会・総会では、日本呼吸器学会の肺炎球菌ワクチン普及プロジェクトの一環として、合同セッションを開催する。
 - ・肺炎球菌は高齢者およびリスク因子を有する患者で重症化をきたしやすいため、肺炎球菌ワクチンの接種が推奨されているが、その接種率は20～30%程度と低く、タンパク結合型ワクチンでは接種率がさらに低い状況が続いている。
 - ・本セッションでは、肺炎球菌感染症のハイリスクである透析患者を診察している先生方に、肺炎球菌感染症の疾病負担やワクチン接種の重要性について伝える企画である。

日本呼吸器学会との肺炎球菌ワクチンに関する合同シンポジウム

座長：菊地 勘（日本透析医学会）、大石和徳（日本呼吸器学会）

演者：

- ① 透析患者における感染症のリスクと肺炎球菌ワクチン接種の重要性（日本透析医学会 吉藤 歩）
- ② 肺炎球菌感染症の概要と肺炎球菌ワクチンの基本的な内容（日本呼吸器学会 中村茂樹）
- ③ ワクチン接種率の現状と接種率向上のために必要なことについて（日本呼吸器学会 永井英明）

5. 2025年の第70回日本透析医学会学術集会・総会において、以下の感染対策委員会企画を行った。

セッションタイトル：「バスキュラーアクセス/ペリトネアルアクセスと感染予防」

司会：菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）

丹野有道（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓高血圧内科）

演題・演者：

(1) バスキュラーアクセス管理と感染予防

甲斐耕太郎（バスキュラーアクセスクリニック目白）

(2) エコーガイド下穿刺と感染予防

増田直仁（東京都済生会中央病院腎臓内科）

(3) 透析用カテーテルに関連した感染対策

谷口弘美（東葛クリニック病院看護部）

(4) 腹膜透析カテーテルと腹膜透析感染予防

井上朋子（川島病院腎臓内科）

セッションタイトル：「透析患者におけるワクチン接種と感染症の予防戦略」

司会：菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）

竜崎崇和（東京都済生会中央病院腎臓内科）

演題・演者：

(1) ワクチンと自然免疫

中山哲夫（北里大学大村智記念研究所）

(2) インフルエンザワクチン

安藤亮一（医療法人社団石川記念会）

(3) 血液透析患者における新型コロナワクチン接種～JSDT2022 年末統計調査より～

菅原有佳（東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科）

(4) 透析患者における肺炎球菌ワクチン接種

～定期接種スケジュールの変更と新たに承認されたワクチンを踏まえて～

井原宏彰（江東病院呼吸器内科）

(5) 透析患者への帯状疱疹ワクチンおよびRSウイルスワクチンの必要性

吉藤 歩（慶應義塾大学医学部感染症学/腎臓内分泌代謝内科）

(6) 透析患者と医療従事者に対する HB ワクチン接種

菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	友 雅 司	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会 理事長 特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会 理事長
常任理事	阿 部 雅 紀	同	非常勤	なし	
同	猪 阪 善 隆	同	非常勤	なし	
同	酒 井 謙	同	非常勤	なし	
理事	繪 本 正 憲	同	非常勤	なし	
同	小 川 智 也	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本在宅血液透析学会 理事長
同	菅 野 義 彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本臨床栄養学会 理事長
同	菊 地 勘	同	非常勤	なし	一般社団法人 東京都区部災害時 透析医療ネットワーク 代表理事
同	倉 賀 野 隆 裕	同	非常勤	なし	
同	小 岩 文 彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本CKD-MBD学会 理事長
同	後 藤 順 一	同	非常勤	なし	北海道透析医会 会長
同	鶴 屋 和 彦	同	非常勤	なし	
同	長 沼 俊 秀	同	非常勤	なし	
同	中 野 敏 昭	同	非常勤	なし	
同	西 尾 妙 織	同	非常勤	なし	
同	花 房 規 男	同	非常勤	なし	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化AI学会 代表理事
同	林 香	同	非常勤	なし	
同	平 和 伸 仁	同	非常勤	なし	
同	深 澤 瑞 也	同	非常勤	なし	
同	正 木 崇 生	同	非常勤	なし	一般社団法人 中国腎不全研究会 代表理事
同	米 田 龍 生	同	非常勤	なし	奈良県医師会透析部会 理事長
同	脇 野 修	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	内 田 潤 次	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	一般社団法人 大阪透析研究会 代表理事
同	小 川 哲 也	同	非常勤	なし	
同	齋 藤 満	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	浅井利大	同	非常勤	なし	
3	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
4	同	浅沼克彦	同	非常勤	なし	
5	同	東治人	同	非常勤	なし	
6	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
7	同	雨宮守正	同	非常勤	なし	
8	同	荒木信一	同	非常勤	なし	
9	同	荒木崇志	同	非常勤	なし	
10	同	荒木英雄	同	非常勤	なし	
11	同	安藤忠助	同	非常勤	なし	
12	同	安藤哲郎	同	非常勤	なし	
13	同	家原典之	同	非常勤	なし	
14	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
15	同	池田直史	同	非常勤	なし	
16	同	池田雅人	同	非常勤	なし	
17	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
18	同	石井大輔	同	非常勤	なし	
19	同	石田英樹	同	非常勤	なし	
20	同	石津隆	同	非常勤	なし	
21	同	石橋由孝	同	非常勤	なし	
22	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
23	同	磯野元秀	同	非常勤	なし	
24	同	一色啓二	同	非常勤	なし	
25	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
26	同	伊藤孝史	同	非常勤	なし	
27	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
28	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
29	同	岩田恭宜	同	非常勤	なし	
30	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
31	同	内田潤次	同	非常勤	なし	
32	同	内山清貴	同	非常勤	なし	
33	同	海上耕平	同	非常勤	なし	
34	同	榎田英樹	同	非常勤	なし	
35	同	海老原至	同	非常勤	なし	
36	同	繪本正憲	同	非常勤	なし	
37	同	大島直紀	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	大城義之	同	非常勤	なし	
39	同	大田聡	同	非常勤	なし	
40	同	大坪茂	同	非常勤	なし	
41	同	大橋靖	同	非常勤	なし	
42	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
43	同	緒方浩顕	同	非常勤	なし	
44	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
45	同	小川智也	同	非常勤	なし	
46	同	柏木哲也	同	非常勤	なし	
47	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
48	同	上條祐司	同	非常勤	なし	
49	同	川合徹	同	非常勤	なし	
50	同	川口祐輝	同	非常勤	なし	
51	同	川瀬友則	同	非常勤	なし	
52	同	河原崎宏雄	同	非常勤	なし	
53	同	神田英一郎	同	非常勤	なし	
54	同	神田武志	同	非常勤	なし	
55	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
56	同	菊川忠彦	同	非常勤	なし	
57	同	菊地勘	同	非常勤	なし	
58	同	菊池正雄	同	非常勤	なし	
59	同	北村健一郎	同	非常勤	なし	
60	同	木村朋由	同	非常勤	なし	
61	同	熊田憲彦	同	非常勤	なし	
62	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
63	同	小出滋久	同	非常勤	なし	
64	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
65	同	合田朋仁	同	非常勤	なし	
66	同	河野圭志	同	非常勤	なし	
67	同	後藤順一	同	非常勤	なし	
68	同	後藤俊介	同	非常勤	なし	
69	同	小林洋輝	同	非常勤	なし	
70	同	小林広学	同	非常勤	なし	
71	同	小林衛	同	非常勤	なし	
72	同	小向大輔	同	非常勤	なし	
73	同	米田雅美	同	非常勤	なし	
74	同	小山一郎	同	非常勤	なし	
75	同	今裕史	同	非常勤	なし	
76	同	斎藤知栄	同	非常勤	なし	
77	同	齋藤満	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	酒井 謙	同	非常勤	なし	
79	同	酒井 行直	同	非常勤	なし	
80	同	坂口 美佳	同	非常勤	なし	
81	同	櫻田 勉	同	非常勤	なし	
82	同	佐々木 健介	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤 純彦	同	非常勤	なし	
84	同	佐藤 暢	同	非常勤	なし	
85	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
86	同	志熊 聡美	同	非常勤	なし	
87	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
88	同	清水 泰輔	同	非常勤	なし	
89	同	常喜 信彦	同	非常勤	なし	
90	同	白石 晃司	同	非常勤	なし	
91	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
92	同	杉浦 寿央	同	非常勤	なし	
93	同	杉田 省三	同	非常勤	なし	
94	同	鈴木 朗	同	非常勤	なし	
95	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木 利彦	同	非常勤	なし	
97	同	鈴木 仁	同	非常勤	なし	
98	同	瀬田 公一	同	非常勤	なし	
99	同	蘇原 映誠	同	非常勤	なし	
100	同	祖父江 理	同	非常勤	なし	
101	同	高田 知朗	同	非常勤	なし	
102	同	滝沢 英毅	同	非常勤	なし	
103	同	滝本 千恵	同	非常勤	なし	
104	同	竹内 康雄	同	非常勤	なし	
105	同	竹田 徹朗	同	非常勤	なし	
106	同	田代 学	同	非常勤	なし	
107	同	田中 賢治	同	非常勤	なし	
108	同	田中 啓之	同	非常勤	なし	
109	同	田邊 克幸	同	非常勤	なし	
110	同	田邊 起	同	非常勤	なし	
111	同	谷口 正智	同	非常勤	なし	
112	同	谷山 佳弘	同	非常勤	なし	
113	同	玉垣 圭一	同	非常勤	なし	
114	同	田村 功一	同	非常勤	なし	
115	同	丹野 有道	同	非常勤	なし	
116	同	辻本 吉広	同	非常勤	なし	
117	同	津畑 豊	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
119	同	土井研人	同	非常勤	なし	
120	同	戸川証	同	非常勤	なし	
121	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
122	同	徳山博文	同	非常勤	なし	
123	同	友雅司	同	非常勤	なし	
124	同	友利浩司	同	非常勤	なし	
125	同	内藤省太郎	同	非常勤	なし	
126	同	長井幸二郎	同	非常勤	なし	
127	同	中倉兵庫	同	非常勤	なし	
128	同	中島歩	同	非常勤	なし	
129	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
130	同	長田太助	同	非常勤	なし	
131	同	仲谷慎也	同	非常勤	なし	
132	同	長門谷克之	同	非常勤	なし	
133	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
134	同	中野敏昭	同	非常勤	なし	
135	同	中ノ内恒如	同	非常勤	なし	
136	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
137	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
138	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
139	同	名波正義	同	非常勤	なし	
140	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
141	同	西尾妙織	同	非常勤	なし	
142	同	西田隼人	同	非常勤	なし	
143	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
144	同	二瓶大	同	非常勤	なし	
145	同	野口智永	同	非常勤	なし	
146	同	橋本幸始	同	非常勤	なし	
147	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
148	同	服部憲幸	同	非常勤	なし	
149	同	花房規男	同	非常勤	なし	
150	同	浜崎敬文	同	非常勤	なし	
151	同	濱野高行	同	非常勤	なし	
152	同	早川和良	同	非常勤	なし	
153	同	林香	同	非常勤	なし	
154	同	林晃正	同	非常勤	なし	
155	同	林秀樹	同	非常勤	なし	
156	同	早田学	同	非常勤	なし	
157	同	原澤信介	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	播本幸司	同	非常勤	なし	
159	同	番匠谷将孝	同	非常勤	なし	
160	同	樋口輝美	同	非常勤	なし	
161	同	平間章郎	同	非常勤	なし	
162	同	平山浩一	同	非常勤	なし	
163	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
164	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
165	同	深水圭	同	非常勤	なし	
166	同	福田顕弘	同	非常勤	なし	
167	同	古市賢吾	同	非常勤	なし	
168	同	古野剛史	同	非常勤	なし	
169	同	星野純一	同	非常勤	なし	
170	同	細島康宏	同	非常勤	なし	
171	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
172	同	前田兼徳	同	非常勤	なし	
173	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
174	同	升谷耕介	同	非常勤	なし	
175	同	松尾七重	同	非常勤	なし	
176	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
177	同	松下和通	同	非常勤	なし	
178	同	松田洋人	同	非常勤	なし	
179	同	丸山彰一	同	非常勤	なし	
180	同	丸山高史	同	非常勤	なし	
181	同	丸山範晃	同	非常勤	なし	
182	同	丸山之雄	同	非常勤	なし	
183	同	三浦健一郎	同	非常勤	なし	
184	同	水崎浩輔	同	非常勤	なし	
185	同	三瀬直文	同	非常勤	なし	
186	同	溝渕正英	同	非常勤	なし	
187	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
188	同	水口齐	同	非常勤	なし	
189	同	三野和宏	同	非常勤	なし	
190	同	宮園素明	同	非常勤	なし	
191	同	宮本哲	同	非常勤	なし	
192	同	望月保志	同	非常勤	なし	
193	同	森克仁	同	非常勤	なし	
194	同	森建文	同	非常勤	なし	
195	同	森下義幸	同	非常勤	なし	
196	同	森本耕吉	同	非常勤	なし	
197	同	森山能仁	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	安田日出夫	同	非常勤	なし	
199	同	柳田太平	同	非常勤	なし	
200	同	山川智之	同	非常勤	なし	
201	同	山口慎太郎	同	非常勤	なし	
202	同	山田保俊	同	非常勤	なし	
203	同	山中正人	同	非常勤	なし	
204	同	山本泉	同	非常勤	なし	
205	同	山本聡	同	非常勤	なし	
206	同	山本卓	同	非常勤	なし	
207	同	横地章生	同	非常勤	なし	
208	同	吉田理	同	非常勤	なし	
209	同	吉田英昭	同	非常勤	なし	
210	同	吉嶺陽仁	同	非常勤	なし	
211	同	吉本明弘	同	非常勤	なし	
212	同	米田龍生	同	非常勤	なし	
213	同	頼建光	同	非常勤	なし	
214	同	若杉三奈子	同	非常勤	なし	
215	同	脇野修	同	非常勤	なし	
216	同	鷺田直輝	同	非常勤	なし	
217	同	渡辺誠	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

該当なし

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	22名	なし	
監事	3名	なし	
評議員	217名	なし	
合計	242名		

(2) 総 会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 7 年 6 月 26 日 通常総会	1. 一般社団法人日本透析医学会評議員選出規則の一部改正(案)に関する件 2. 令和6年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 3. 名誉会員推薦に関する件 4. 第73回総会並びに会長に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(3) 各種委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・総務委員会	「該 当 な し」	
・財務委員会 令和 7 年 11 月 18 日	1. 2025 年度予算の誤謬訂正について 2. 2025 年度 事業計画に伴う補正予算要求について 3. 正味財産増減予算書（誤謬訂正後、補正予算額を加えた予算書）について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 8 年 3 月 10 日	1. 2026 年度予算（案）について 2. 2026 年度新規事業計画に伴う概算要求（案）について 3. 2026 年度事業計画（案）について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・編集委員会	「該 当 な し」	
・学術委員会 令和 7 年 4 月 11 日	1. 学会賞・奨励賞の選考に関する件	全会一致で承認
・統計調査委員会 令和 7 年 5 月 23 日	1. 2024 年調査のまとめ 2. 2024 年現況報告案, CD-ROM 帳票案の提示 3. 2025 年（次年）調査内容の検討 4. EDC 推進検討ワーキンググループ会議の報告 5. 公募研究採択案件について 6. WADDA システム利用規程について 7. 第 70 回日本透析医学会学術集会 統計調査委員会企画 8. USRDS へのデータ提供	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 7 年 8 月 1 日	1. EDC（Electronic Data Capture）の仕様に関する検討 2. 2024 年調査のまとめと今後の予定 3. 2024 年調査 現況報告, CD-ROM 帳票 4. 2025 年調査内容の決定 5. 2025 年調査実施に向けて 6. 2024 年度公募研究 7. 公募研究内規の改訂 8. 統計調査入力用 Excel ファイルの目的外使用届について 9. 他団体へのデータ提供（USRDS）, SharE-RR 報告	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 7 年 10 月 23 日	10. 2026 年学術集会 第 71 回学術集会 委員会企画 1. 統計調査委員会と EDC 推進検討 WG の合同会議について 2. 2025 年調査について 3. 2024 年現況報告, CD-ROM 帳票 4. 統計調査入力用 Excel ファイル目的外使用について 5. 公募研究 募集～データ提供までのスケジュール等 6. WADDA システム 研究切出しシステム 7. 2025 年学術集会 第 70 回学術集会 委員会企画の内容について 8. SharE-RR に関する報告	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 8 年 2 月 27 日	1. 2025 年調査の経過報告と今後のスケジュール 2. 2026 年度事業計画と 2025 年度事業報告の確認 3. 2026 年調査内容の検討	報告・承認 報告・承認 報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・保険委員会	「該 当 な し」	
・倫理委員会 令和 7 年 9 月 1 日	1. 日本透析医学会統計調査にかかわる臨床研究倫理審査について	全会一致で承認
・腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	
・危機管理委員会 令和 7 年 10 月 6 日	1. 令和 7 年度の事業報告について 2. 第 71 回学術集会の災害対策小委員会の委員会企画 3. 第 71 回学術集会の医療安全小委員会の委員会企画 4. 日本医療安全調査機構への協力について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等検討委員会	「該 当 な し」	
・男女共同参画推進委員会	「該 当 な し」	
・感染対策委員会 令和 7 年 9 月 22 日	1. 「外来維持血液透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関するアンケート」の結果報告 2. 日本透析医学会での委員会企画について 3. 日本呼吸器学会との肺炎球菌ワクチンに関する合同シンポジウムについて	報告・承認 報告・承認 報告・承認

⑤ 許可，認可，承認等に関する事項

申請月日	申 請 事 項	許可等月日	備 考
	「該 当 な し」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相 手 方	契 約 の 概 要
	「該 当 な し」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係	
理事長	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腎血液浄化 AI 学会	監 事	一 部	
		一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部	
		一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部	
常任理事	阿 部 雅 紀	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	副理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	副理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	副理事長	一 部	
		一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部	
	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	特別顧問	一 部	
		一般社団法人 大阪透析研究会	理 事	一 部	
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部	
		公益社団法人 大阪ハートクラブ	理 事	関係なし	
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部	
	酒 井 謙	一般社団法人 日本移植学会	理 事	ほぼ同一	
		公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一	
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部	
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	ほぼ同一	
		一般社団法人 日本腹膜透析医学会	理 事	ほぼ同一	
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	理 事	一 部	
	理 事	繪 本 正 憲	一般社団法人 大阪透析研究会	理 事	一 部
			一般社団法人 日本マグネシウム学会	理 事	関係なし
			特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
小 川 智 也		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部	
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	副理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部	
		一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部	
		一般社団法人 日本アフェレスिस学会	理 事	一 部	
		一般社団法人 日本在宅血液透析学会	理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部	

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	小 川 智 也	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	一 部
	菅 野 義 彦	一般社団法人 日本臨床栄養学会	理事長	関係なし
		一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	関係なし
		一般財団法人 日本栄養療法推進協議会	副理事長	関係なし
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	菊 地 勘	公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
		NPO 法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 東京都区部災害時透析医療ネットワーク	代表理事	ほぼ同一
	倉 賀 野 隆 裕	特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部
	小 岩 文 彦	一般社団法人 日本 CKD-MBD 学会	理事長	関係なし
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	関係なし
	後 藤 順 一	北海道透析医会	会 長	ほぼ同一
		札幌市透析医会	副会長	ほぼ同一
		日本透析アクセス医学会	副理事長	ほぼ同一
		日本医工学治療学会	理 事	一 部
	鶴 屋 和 彦	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	関係なし
	長 沼 俊 秀	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 大阪透析研究会	理 事	ほぼ同一
		大阪透析医会	常任幹事	ほぼ同一
	西 尾 妙 織	一般社団法人 多発性嚢胞腎協会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	花 房 規 男	特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	代表理事	一 部
	林 香	妊娠高血圧学会	理 事	関係なし
	平 和 伸 仁	神奈川県透析医会	理 事	一 部
		一般社団法人 米国内科学会日本支部	監 事	関係なし
	深 澤 瑞 也	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析合併症医学会	理 事	一 部
		日本透析機能評価研究会	理 事	一 部
	正 木 崇 生	一般社団法人 中国腎不全研究会	代表理事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
	米 田 龍 生	一般社団法人 日本移植学会	理 事	ほぼ同一

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	米 田 龍 生	奈良県医師会透析部会	理事長	ほぼ同一
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	理 事	ほぼ同一
	脇 野 修	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本臨床栄養学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本腎不全合併症学会	理 事	一 部
監 事	内 田 潤 次	一般社団法人 大阪腎泌尿器疾患研究財団	理 事	関係なし
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	関係なし
		一般社団法人 大阪泌尿器科臨床医会	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	関係なし
		一般社団法人 大阪透析研究会	代表理事	関係なし
	齋 藤 満	公益財団法人 あきた移植医療協会	理 事	関係なし

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。